

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

5月
& 6月

福玉便り

ふ く た ま だ よ り

通巻 120 号

発行：『福玉便り』編集委員会（NPO 法人埼玉広域避難者支援センター）

住所：〒338-0002 埼玉県さいたま市中央区下落合4丁目5番11号 カーサ・グレイスI 101号室 電話番号：080-4331-0290

メールアドレス：fukutama.center@gmail.com

眠れない日が続いているとき 気にかかることがあるとき 困っていることがあるとき
理由ははっきりしないけれど、誰かに話を聞いてもらいたいとき
いつでも気軽に電話ください。

福玉相談センター 電話：080-4331-0290

火曜日・水曜日・木曜日・金曜日（9：30～16：30）

電話で相談しづらい方はメールでもどうぞ。メール：fukushima_soudan@yahoo.co.jp



NPO 法人埼玉広域避難者支援センターは、
2026年3月に下記住所に移転しました。
今後はこちらにご連絡ください。

電話番号：080-4331-0290

メールアドレス：fukutama.center@gmail.com

住所：〒338-0002

埼玉県さいたま市中央区下落合4丁目5番11号
カーサ・グレイスI 101号室



「災害時のトイレ対策」被災後も、
みんな笑顔で暮らせるように
「」講演会を開催しました！

3月21日 @With You やつたま



災害時には、水や食料はある程度我慢ができたとしても、排泄を我慢することはできません。能登半島地震でも過去の教訓を活かすことができず、トイレ環境の悪化が繰り返されました。そこで今回は、「うんこマダム」

こと椿佳代先生（エンジニアランプへ男女共同参画の視点で考える防災・減災の自主グループ代表）をお招きし、災害時の避難所トイレの現状について話を聞き、凝固剤による処理方法も学びました。

避難者の皆さんが避難所でのどのような体験をしたのかも語ってくれました。そのお話から、トイレ対策が人としての尊厳や健康を守るうえで非常に重要だということが理解できました。

今後も震災の経験から学び、災害への備えを進める機会をつくっていききたいと思います。

（編集部・薄井）

上尾シラコバト団地での最後の追悼式

3月11日、上尾市の県営シラコバト団地にて、「シラコバト団地東日本大震災に咲く会ひまわり」（代表・橘光顕さん）主催の15回目となる東日本大震災追悼式が開催されました。当日は晴天に恵まれ、「つなげよう花の心実行委員会」の方々がお花を生けた集客室に、約50人の参列者が集まりました。

3月11日、上尾市の県営シラコバト団地にて、「シラコバト団地東日本大震災に咲く会ひまわり」（代表・橘光顕さん）主催の15回目となる東日本大震災追悼式が開催されました。当日は晴天に恵まれ、「つなげよう花の心実行委員会」の方々がお花を生けた集客室に、約50人の参列者が集まりました。

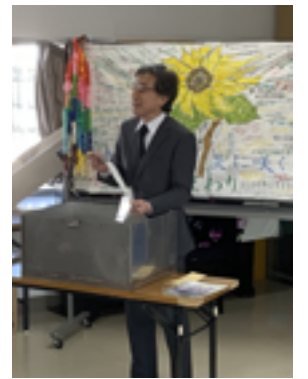
最初に薄井篤子さん（埼玉広域避難者支援センター副代表理事）の司会のもと、シラコバト団地の3名の方から式辞をいただきました。「花と緑の会」の古澤勲さんからは、避難者の方々と励まし合いな

から活動してきて、この15年間で「あげお環境賞」を2度受賞できたことへの感謝が述べられました。「こぼとサロン」の南雲富江さん（代読）からは、震災直後に支援物資を配ったことや、団地内の各種行事で協力してもらった思い出と、「これから仲良く暮らしていきたいよう」というメッセージが寄せられました。元自治会長の宮下東さんからは、2011年4月に歓迎会を開いたことや橘さんと国交大臣に居住延長の要望に行ったことの違いと、橘さんを中心に一年も欠かさず追悼式を開催できたことへの感謝、そして



「避難者の方々がいることを忘れない」と思っています。また

た、上尾市の畠山稔市長からも代読で、「皆様にとって上尾市がもう一つの故郷になったなら、私たちに



と。2013年には最大で、団地810世帯中61世帯が避難世帯だったこと。2014

とつても大きな喜びです。本市はこれからも皆様の歩みを支え、共に歩み続けるパートナーでありたいです」とご挨拶が寄せられました。そして、14時46分、被災地の方角に向けて黙祷を捧げました。その後、記念事業として10年前の2016年3月11日の追悼式で封印されたタイムカプセルの開封式が行われ、当時の参加者の皆さんが収納した思い出の品が順番に取り出されました。

年には「東日本大震災に咲く会ひまわり」に改名して、追悼式のほか他団体訪問、映画上映会、忘年会新年会にも取り組んできたこと。災害救助法の住宅提供期間の終了に伴って、県営団地に居ながら入居が申し込める特例措置を実現し、その適用範囲を拡大できたこと。コロナ禍で集客室が使えなくなった時には、龍山院で追悼式を実施したと。そして、この日の追悼式でタイムカプセルを開封できたことと、この3月で双葉町・大熊町から避難した方々の正式な入居手続きが完了したことで、会の目標をすべて達成し、「ひまわりのような活動を目指してきた自分たちも大地に着地することができました」と休会が宣言されて、追悼式も閉会となりました。

最後に橘さんから、この15年間を振り返って挨拶がありました。2011年4月にシラコバト団地に入居して、自治会主催の歓迎会をきっかけに、困りごとの解決のため「被災者の会ひまわり」を立ち上げたこと。2012年の3月に最初の追悼式を開催したこ

閉会後、2013年の追悼式で植えた河津桜の前で、橘さんに改めてお話を伺いました。ひまわりはこれから一年かけて関係各所へのご挨拶や備品整理をしてから会を閉じる予定で、今回の追悼式が最後となることです。橘さんは、毎年違う趣旨の追悼式を企画して、様々な方々のご協力のもと継続できたことについて、感謝の言葉を口にされました。私自身、2012年の追悼式で橘さんやシラコバト団地の皆さんと初めてお会いして、それからほぼ毎年、追悼式に参列させていただいてきました。支援者という立場の私にとっても、毎年3月11日に皆さんと会いを共有し、自分に何ができるのかを確認する、貴重な場所になってきた気がします。橘さんへの感謝と労いの気持ちとともに、シラコバト団地での追悼式は終了しても、ここで得られた思いや人とのつながりを大切にしたいと感じました。

（編集部・原田）

ふるさとを奪われて

北村雅さんインタビュー

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

双葉町から埼玉県を経て現在は栃木県小山市に避難されている、元双葉町社会福祉協議会職員の北村雅さんが、詩集『ふるさとを奪われて』を出版されました。故郷への思いや避難生活の日常を、22編の詩に収めています。出版に寄せて、北村さんにお話を伺いました。（編集部・原田）

できました。お手紙くれる人は意外と、「片思い」「水仙の花」なんて詩が印象に残るって言いますね。

奥さんについての詩ですよね。故郷や原発事故について書いた詩と、ご家族について書いた詩の両方載っていることに、非常にリアリティを感じました。詩集としてまとめようと思われたのはいつ頃ですか？

去年の3月です。70歳になるので、バーンコンサートの開催と、3月のイベントの開催と、あとは書き溜めた詩を1冊にまとめようと。60歳の時もそうでしたが、70歳を双葉町で迎える筈だったのが、違うんだよってことなんです。他の皆さんもそうですよね。

詩集としてどんな思いが込められていますか？

「住民票がありません」という詩もありますよね。15年前のあの日をやっばり忘

れないっていうか。忘れかけてる人には、何があったのかわかってことですよ。あとやっばり、孫たちに何かを残すっていうことが大事なんだろうと思っ

て。孫たちは、自分たちがみんな小山で生まれたと思ってるけど、本当は違うんだよっていうのを、元気なうちに伝えておきたいなど。

それと並行して、あの時はもう原発は作らないとか、再稼働しないと云ったのに……。柏崎は動き出してすぐ止まって、浜岡は改ざんでしょう。福島

の原子力発電所は、関東の方々が電気を使うために送られてきたことだけは覚えてる。それで新潟の原発が再稼働する時に、関係ないなんて

思っただけじゃないかと、それはやっばり言いたいです。また同じことが誰にも起こらないなんてわかんないし。

あとは双葉町のことを知ってほしい。知ってほしいから、一度は行ってみて欲しいですね。

「住民票がありません」という詩もありますよね。今

も住民票を残していらつしゃる双葉町に対して、改めてどういうお気持ちですか？

今回の選挙（2月の衆院選）で、私は住民票を移してないから福島県の第4区。でもそこから出てくる人がどんな人なのか、よく分からないです。そうすると「なんで住民票を移さないの？」って言われても、

そんな簡単に移せるもんじゃありませんよ。私はタイミンクなかなって思ってるんだけど、そのタイミンクって何なのか。同級生でも、誰も移していないのね。

私は帰らないって決めてるけど、私は色んな事柄があつて双葉に行く機会も普通の人より多いかもしれない。町での行事とか自分が声をかけられたものを否定するつもりはないんです。ふるさとを奪われて

「ふるさとを奪われて」というタイトルだけで、自分が頑張ったり、双葉町から目を離さなかったり、興味をなくさない限り、「奪われたんだけど、いや残ってるのかな」なんて思ったりもしますね。具

「住民票がありません」という詩もありますよね。今

「住民票がありません」という詩もありますよね。今

「住民票がありません」という詩もありますよね。今

「住民票がありません」という詩もありますよね。今

「住民票がありません」という詩もありますよね。今

「住民票がありません」という詩もありますよね。今

「住民票がありません」という詩もありますよね。今



体的にと言われると困るんですけど。

だから、「北村さんにとってふるさとって何ですか？」なんてよく聞かれるけど、何答えても的を射てないような気がします。でも逆に、聞くことが間違ってるんじゃないかと思ったりしませんか？無理にその人から引き出してもしょうがないんじゃないかな、と思ったりもします。

ただ、双葉町のいろんな自治会があったのが、今残ってるのは白河と加須だけなんですよ。あの時70とか60後半で引張ってくれた方が、15年経ったじゃないですか。下の人は今働き盛りで。双葉町の方が集まることさえ難しくなっているのが、問題かなって私も思っています。自立していくというのと、それは全く別だと思わね。今何が必要かって、人が会う機会が必要かなって思っていますよね。

——今回出された詩集はどんな方に読んでほしいですか？

詩っていうのは独断と偏見で書いてるから、そうじゃないと思う人だっつていいと思います。読む人にとっては分かる詩もあるみたいです。私にとっては、これを出したって

——最後に、『福玉便り』の読者の皆さんへのメッセージをお願いします。

私は今年に2回は勿来と加須に行くんですけど、みんなが忘れても、私は皆さんのことを忘れないよっていうメッセージを送っていくんです。私は栃木にいても、埼玉にいる方たちのことは忘れないよっていうメッセージは伝えていただければと思います。

※詩集は1冊1650円(税込み)。購入を希望する方は北村さん(090・5840・3405)まで直接ご連絡ください。

各地の交流会など

『福玉便り』では創刊以来、埼玉県内各地の交流会情報をカレンダー・マップで掲載してきました。現在も開催されている団体さんの5,6月の交流会情報・連絡先や、各団体さんからのメッセージをご紹介します。なお、震災・原発事故から15年が経過して、活動を休止・終了される団体さんも増えていますが、各地で個人的な交流は継続されていると伺っています。掲載可能な機会やメッセージがあったら、ぜひお寄せください。

①	加須市	双葉町民によるボランティアカフェ	090-5356-8778 (鶴沼さん)
⑥	加須市	オバトン	090-6526-8560 (藤井さん)
⑧	上尾市	東日本大震災に咲く会ひまわり	080-3091-6215 (橘さん)
⑩	熊谷市	くまがや結の会	090-7661-9236(林崎さん)
⑱	川口市	ひまわりの会	080-5431-0123 (島田さん)
⑲	さいたま市	さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com
⑳	ふじみ野市	おあがんなんしょ交流会	090-5345-8408 (松館さん)
㉓	さいたま市	玉兎の会	090-6128-1948 (小林さん) https://gyokutonokai.wixsite.com/2018

⑲さいがい・つながりカフェ

5/14(木)、5/28(木)、6/11(木)、6/25(木)11:00～15:00

WithYou さいたま和室

080-5532-7380、tunagari.saitama@gmail.com

※3/12(木)のさいがい・つながりカフェでの被災者アンケート調査結果報告について、テレビ埼玉と埼玉新聞の取材がありました。テレビ埼玉の取材ニュースはYouTubeで見ることが出来ます。ぜひご覧ください。テレ玉ニュースYouTube→3/12NEWS530「東日本大震災被災者のアンケート結果を報告 / 埼玉県」

⑥オバトン

震災から15年ということもあり、埼玉新聞の取材を受ける機会がありました。当日参加されていた双葉町の方も記者の取材を受け、思い思いに話していました。新聞に双葉町ことなどシリーズで掲載され、埼玉新聞の読者や県民の方に震災の事が再認識されたと期待しています。

5/12(火)、5/28(木)、6/9(火)、6/25(木)

10:00～14:00

キャッスルきさい 090-6526-8560 (藤井さん)

⑳おあがんなんしょ交流会

5月に森林公園散策を計画中です。日時はメール等でお知らせします。090-5345-8408 (松館さん)

㉓玉兎の会

予約は要りません!お気軽にご参加ください。

5/23(土)10:00～12:00 With You さいたま セミナー室4 ※6月はお休みの予定です。

048-854-8703 (小林さん)

https://gyokutonokai.wixsite.com/2018

福島県復興支援員埼玉事務所は、一般社団法人埼玉県労働者福祉協議会での受託事業が令和7年度で終了となり、令和8年度からは、公益社団法人埼玉県社会福祉士会が受託をして活動を始めます。

4月1日からは、下記へ連絡先をお願い致します。

住所：さいたま市中央区本町東1-2-5 ベルメゾン小島105号室 電話番号：070-8697-1012